

全久院報

全久院発行 松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

本当に時の流れは早いもので、もう今年も半分が過ぎようとしています。この流れに遅れないようにと思いながらもなかなか思うように時を自分のものにできず、もがいてるばかりでした。それでも住職になってから少しずつですが自分なりの活動しようという意識を持つことができるようになりました。

法事のたびに皆さんからの意見を頂戴しました。できるところからと思い、坐禅会、ご詠歌の会など始めました。これらの会を始めて、一番勉強になったのは私自身だろうと思います。坐禅会の初めに約30分のお話をしますが、坐禅では表に現れる物事の裏には何があるのかを人の心や自然と向き合って探ってゆきます。今まで見過ごしていたことや気がつかなかった様々なことを、少しずつでも意識できるようになってきたのではないかと思います。これらの会を通じてさらに勉強させていただこうと思います。最後のページの伝言板で日程をお知らせしますのでぜひご参加ください。



また、法事で最近よく東堂の近況を尋ねられます。東堂は今年86才になりました。健在ではありますが、息子にとって万年スーパー青年の自慢の父は、最近少し年を取ったようです。松本弁で「ずくが抜けた」というのが丁度当てはまる表現かなと思います。

本年上半期にも様々な事業を行ってきました。本紙面にて報告させていただきますが、最近感じているのは、お寺というものは檀家様のための寺であるということ。それと同時に歴史と格式のある全久院にふさわしい働きをしなくてはいけないということ。さらに社会に対して仏教の果たす役割をさらに考え、行動してゆかなくてはならないということです。さらに檀信徒の皆様からのご意見を頂戴しながら、親しみやすい全久院にしてゆきたいと考えております。

お盆前の作業と懇親会にどうぞ

本年も、お盆が始まるにあたり、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思えます。昨年も15人の方に参加していただくことができました。写真は、汗をかいた後の懇親会の模様です。住職も堅苦しい着物を作業着に替え、一緒に作業をし、一緒に汗をかき、一緒に美味しい一杯を頂きたいと思えます。



7月22日（土）15時より掃除 17時より夕食を兼ねた懇親会 全久院の庭に集合 作業のできる服装でお越しください。厳粛な中でのふれあいではなく、汗をかきながらの作業や懇親ですので、堅苦しくないお寺の様子もわかっていただけかと思えます。参加希望の方



方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。

お盆参りのお知らせ お盆のお参りの予定を次の表

にしましたのでご覧ください。昨年から長男俊浩（左写真）が棚経に回るようになりました。駒沢大学の2年生で僧侶の卵ではありますが、お参りするのがやっとという状態です。が、「声はいいよ」「初々しくて可愛い坊様だよ」などお褒めの言葉を頂戴し、本人もだいぶ励ましていただいたようです。本年もよろしく願います。今年の予定は下記の表のとおりです。従来の周り順と変更はありません。よろしく願いいたします。

8月	住職の回る範囲	長男
9日	新盆のお宅	
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、新村など市外南部	笹部、征矢野、南原
12日	筑摩、惣社、横田、岡田、沢村など市外北部	石芝、二子、神林、南松本
13日	源地、県、清水、女鳥羽、浅間など市内北東部	宮村、埋橋、井川城
14日	北深志、蟻ヶ崎、丸の内、島内、白板など市内北西部	本庄、庄内、南新町
15日	留守だったお宅、博労町、天神、飯田町、本町	井川城、鎌田、東中条
16日	留守だったお宅	

「りらの会」の活動本格化

「りらの会」は昨年11月にNPOの認可を受け、活動が始まりました。「家族や地域の絆が希薄になり、ちょっとした気配りやお手伝いでもっと潤いのあるすごしやすい社会になるのに！」という思いを持つ者同士が集まって出来た会です。

全久院にとっては葬儀や法事の手伝いをしてもらっています。一つの例として、自

宅で参列者30人くらいのお通夜、その後全久院で葬儀をして150人のお参りがあり、あとふきの食事の席に80人くらいが出席したとすると、役所や葬儀の手続き・敷物・食事など一切の費用の合計で約120万円くらいになります。

隣組や親戚にお手伝いを頼みにくくなっている昨今、りらの会に人手をお願いできるということで、全久院で葬儀をするケースが増えてきました。また法事でもあとふ



きを含めてお寺でとりおこなうケースが増えてきました。また、これらの法事でりらの会のメンバーと顔見知りになって、日常のちょっとしたところで気軽に利用していただけるようになって来ました。

家族が自分たちの手で法事を行うことで、肉親の死という心の痛みを癒し、さらに家族の絆を強めてゆくという仏事の過程を取り戻してきていると感じています。すぐに大きな結果を得ることが出来るとは考えていません。一步一步色々な経験をしてしっかりした組織にしてゆきたいと考えています。会員として一緒に活動していただく方も募集していますので、ご協力ください。

全久院の境内

(境内の仏像や自然をお知らせします)

全久院の開山様

本堂をさらに進むとその裏に開山堂があります。廃仏毀釈のあと全久院を復興して下さった、復興開山様の像がその正面に安置されています。「勅特賜弘濟慈徳禪師梅崖奕堂大和尚」(こうさいじとくぜんじせんがいえきどうだいおしょう)が本名です。名古屋の平野甚右衛(織田信長の家臣の末裔)の第3子として、1805年正月元旦に生まれました。8才の時得度し、厳しい修行を続けました。18才の時大病していった言葉に「死して叢林に在るは先聖の美とする処、願わくは骸骨を清浄の地に埋めん」とあります。29才の時松本の全久院に安居し、32世洞門和尚について修行をしました。当時全久院は長崎、加賀、美濃、松代の叢林に並ぶ厳しい修行道場でした。12月一週間の特別修行の時、ついうとうとしてしまう自分に嫌気がさし、寺の側に流れる女鳥羽川に入って一晩中坐禅をしたと伝えられています。また、禅師は身長6尺と大柄で、二俵の米俵を軽々と米蔵に収めるのを、松本城の倉係りが見物に来たともいわれています。



明治維新の廃仏毀釈に対して、「神仏は之を輔けて並び行わる」と全国の諸侯に建白書を送りました。また神官が「仏教には地獄極楽を説くがその両者は何処にあるか」の問いには「諸君が謂う高天原は何処にあるか。地獄極楽は高天原のすぐ隣にある」

と答え、堂々としておられたといわれています。明治3年66才で大本山総持寺禅師の勅命を拝受し、明治10年安達達淳（全久院再興2世）の拝請を受けて73才の時全久院の再興開山となりました。全久院を振り出しに、茅野の三光寺、林の広沢寺、などの授戒会に巡教しました。75才にて遷化されています。師の弟子は1046名を数え、永平寺の禅師様や全久院4世沖津元機和尚などを輩出しました。ここの禅師様を開山としておまつりしております。

仏教ミニ知識

お盆の棚の飾り方はどうしたらいいかい？」と聞かれます。こうでなければなりませんということだけでなく、その家々で伝わってきた仕方が最適と思います。が、ここに例になりそうな2軒のお宅の飾り方を紹介して、説明します。

盆棚の飾り方

1、棚を作る場合

上の段に本尊様、（本尊様は仏壇に入れてお盆中は閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください）お位牌、塔婆をまつる。2段目に供物やお膳、水やお茶。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。棚の数が多いお宅は上の写真のように各棚に分けてお供えください。



2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおりまつる。手前に 経机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。

その他灯籠や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げて置いてください。



初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。

全久院の集い

ご詠歌

梅花全国大会 曹洞宗のご詠歌は梅花流といひます。各寺にご詠歌を習う講があり、その講が宗務所ごとにまとまり、一つの課題曲を練習します。そして1年に1回開催

される全国大会で発表します。本年は北海道の札幌市で開催されました。全久院からも2名参加してお唱えしてきました。住職も初めてのことで、全てがぶっつけ本番でした。教本を忘れてお借りしたりなど、これから先のために貴重な体験をしてきました。



また、大会の最後に南こうせつさんのミニコンサートがありました。「神田川」で有名な歌手ですが、大分県の曹洞宗の寺の出身だそうで、新しいご詠歌「まごころに生きる」を今回のために作曲してくれました。フォークソングのような、子供からお年よりまで親しみ安い、優しく暖かい曲となっています。彼の話術と歌で大いに盛り上がり、20分の予定が大幅に超過するコンサートになりました。



梅花検定 現在ご詠歌の稽古は6人で行っています。今年2人増えました。先に始めていた4人は2番目の資格を取るために、5月26日茅野市の検校庵で検定を受けました。4人が一緒にお唱えできるので緊張はしましたが、何とか落ち着いて出来たようです。今回は権正教導（ごんせいきょうどう）の資格を取ることができました。

坐禅会 坐禅を始めるに当たり、30分間坐禅にまつわるお話をしています。現在は市民タイムスに連載されている青山俊董師の「従容録ものがたり」をテキストに話をしています。その中の1つを紹介します。

「南泉斬猫（なんせんざんみょう）」という話です。昔、中国に南泉という高名な和尚がいました。ある日弟子たちが一匹の猫を囲んで「猫に仏性があるか？」と議論していました。すると、南泉は猫を掴み、片手には刀を持ち「ちと、ましなことを言うことができたなら、猫を切らないでおこう」と言ったが、弟子たちは何も言うことができず、南泉ははついに猫を切り捨てた。そこへ弟子の趙州が来て、同じことを問うと、何も言わず履いていた草履を頭に載せて出て行った。「趙州がいたら猫は殺されなかったのに」と南泉は言った。という話です。

いかにも禅問答、という話です。ここで青山師は猫の生死というぎりぎりの処へ弟子を追い込み、人として逃げ場のないところで、人生の真実をつかむという教えを説いているのだと教えてくださっています。自分の偏った見方を捨てなさい、薄っぺらな分別を捨てなさい、精一杯の生を生きよ、目的を見据え時には遠回りする柔軟性を持ってなど、多くの教えを勉強させていただいています。勉強していることを少しでも日常生活に取り込むことが出来ればと考えています。

観音講

観音講の上半期はお寺以外の会場を使う月があります。1月は新年会で近郊の温泉を、6月は小旅行で温泉に行きます。今年の新年会は浅間温泉で行いました。6月の旅行は岐阜県の平湯温泉へ行きました。午前中に松本駅付近に旅館の送迎バスに来てもらい、旅館に向かいます。到着して、お茶を飲んだり、温泉に入ったり。昼は旅館の自慢料理をいただき、午後は皆でお話したり、温泉に入ったり、自由に過ごします。そして夕方帰宅します。ゆっくりした時間を、気心の知れた観音講の仲間と過ごすのもいいものです。



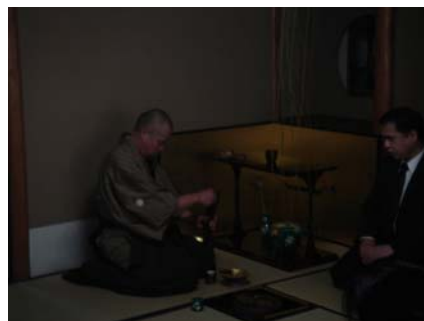
護持会より

今年も1月21日（土）4時より、恒例の新年会を開催しました。毎年20日に近い土曜日に開催しています。昨年度の事業の報告や会計報告、本年度の事業案を全久院護持会総会ということで承認していただいています。住職が年度末に檀家様を回って頂戴している護持会費がどのように使われているかも承認を受けています。細かい数字は省きますが、毎年護持会費収入は350万円ほどあります。その他墓地永代使用料などが収入に繰り込まれます。支出は宗務庁や宗務所への分担金、営繕費、火災保険料などです。また、現在までの積み立て金もあり、屋根替えや消火設備に使われます。平成17年度には1400万円ほどの積立金があります。本堂の屋根がかなり傷んできているので、数年先を見越して屋根替えにこの積み立てを充てようと考えています。ぜひ新年会にご参加いただき全久院護持に皆様の力をお貸しいただきたいと思ひます。

茶道コーナー

初釜

毎年1月15日に近い日曜日に稽古始めの初釜を行います。今年は東堂が点前を住職に譲ったため、茶室での濃茶は住職が点てました。表千家では、床の間の掛け軸や花の飾り、棚や水指しなどの道具など正月用のおめでたいしつらえに決まりがあり、それに合わせて道具を取り合わせます。特に茶碗は重ね茶碗といって、内側を金銀に色付けされたいかにも正月らしい茶碗で濃茶を点てます。実は前の晩に複雑な手順を必死に丸暗記して点てたのですが、なんとか点て終えてほっとしました。



日本古来の文化や伝統や生活をそのまま伝える茶道を伝えてゆくのは大変なことですが、あまりにも変化の激しい現代社会に、必死になって冷や汗を流しながら、ゆ

ったりと流れる茶の時間を作り出してゆくことも意義あることと思います。

茶道の始まり

法事に行くと「お寺は茶道を教えているが、茶道はどんなふうにはまったのか？」と時々尋ねられます。このコーナーでは茶道のことをお話したいと思います。茶道は1400年頃その原型が中国から伝わって来ました。中国では仏教寺院で仏様にお茶を供える作法から発展した闘茶が盛んになっていました。お茶を飲み比べ、本場のお茶かどうか、水の品質の良し悪しを当てるものでした。この闘茶がまず日本に伝わり、日本流に形を変えてゆきました。日本では闘茶は茶合わせと呼ばれ、左手に湯瓶、右手に茶筌を持ち次々に点る（たてる）のが茶道の始まりでした。

この茶合わせに日本的なものを取り込んで茶道といえるところまで発展させたのが、連歌、水墨画、立花、唐物の目利きなど万芸の大家と言われた能阿弥（足利6代将軍義教・8代義政に仕えた）でした。連歌の会所を改造して茶室を、連歌の会を真似して茶会を考案しました。さらには書院飾りの法式や、元々は禅宗僧侶の書齋や居間として使われていた座敷の床の間や違い棚や書院窓の飾り方を、掛け物の飾り方や、香合・茶碗・茶入れ・盆石・すずり箱や文具の飾り方を制定したのです。

また中国で仏様にお茶を差上げるための台、台子（点前で使う棚）が鎌倉時代に大徳寺に伝わっていたのですが、風炉釜、水指、茶碗、茶入れなどの飾り方を制定しました。さらに、小笠原流の所作、弓の操法、能の歩き方を、そして古流といわれる茶道の原型を編み出しました。（次は次号に続きます）

住職の活動

アフガニスタンスタッフ、ワヒドさん来松

前号でご紹介しましたが、私が参加している海外援助組織のSVA（シャンティー国際ボランティア会）のアフガニスタン事務所の現地スタッフ、山本英里さんとワヒド・アマード・ザマニさんが5月18日から20日まで来松しました。5ヶ所で講演をしていただきました。講演内容は難民となったワヒドさんの半生とアフガンの現状、どう国を復興させるかという内容でした。

ワヒドさんは1979年ソ連軍がアフガンに侵攻した時（カンボジアでポルポト政権下の戦争が始まった年）以来、2002年まで続いた内戦によって、家が壊されたり、財産を搾取されたり、捕らえられて殺されそうになるなど、苦難の時を過ごしてきました。家畜を飼う仕事をしながら、小学生でありながら亡くなったお父さんの代わりに生計を支えました。いよいよ身の危険を感じた時、家族で隣国パキスタンのペシャワール難民キャンプに命からがら逃げ込みました。ここでNGOに雇われ、家族を養い、そしてオランダに無事亡命させました。しかし彼は単身アフガンに戻り、危



険を承知で次世代の子供達には戦争の辛い体験をさせたくないとの強い意志の下に国の復興に尽力しました。様々な事業に参加しながら、私たちが行っている教育復興が、時間はかかるが平和な国を作るにはもっとも大切な事業と考え、SVAに参加したとのことでした。この講演のあとたくさんの質問を受けました。

松本市社会福祉協議会（18日6時30分から）〔太字は質問〕

第1回夜間ボランティアセミナーとして開催されました。

松本市立源池小学校6年生（19日9時40分～10時25分）

難民キャンプでは何を食べましたか 配給された小麦粉と多少の鶏肉と野菜です。生きるための最小限のカロリーを取るのがやつの食料です。**子供に文房具はありますか** ユニセフから配られるノート1冊とボールペン1本です。教科書も1年間借りて、学年が終わると返します。**テレビはありますか** 首都カブールなど都市には電気があるのでテレビを持っている人もいますが、高くて一般の人



には買うことができません。都市を離れると電気がないのでテレビはありません。**日本の印象は？** 戦後の復興を果たした平和ですばらしい国です。アフガンの人は日本に好意を持っており日本人は大歓迎です。東京などの都市は人が多過ぎて、電車に乗ると肩や肘で押されたり、自然が少なくビルばかりで好きではありません。松本は自然が豊かで山に囲まれていてアフガンに似ていて素晴らしいと

ころです。人も好意的で私を歓迎してくれて感激しています。**私たちに何をしたいですか** 戦争のない、平和な国を作るために時間がかかっても子供達への教育が一番アフガンに必要だと思います。学校を作ったり、本を贈ったり、絵本を贈ったり、図書館活動をする支援をして欲しいと思います。

松本市立鎌田小学校6年生

病院はありますか カブールなどの大きな都市にはありますが、それ以外には病院はありません。薬も都市では店がありますが、それ以外には店がなく、病気になると薬草を飲むしかないのが、軽い病気でも死んでしまうことがあります。主な病気は風邪、マラリヤ、ラシマニア（ハエが運ぶ病気）です。**学校建設**

について教えてください SVAは今までに20校ほど作りました。10教室に職員室と図書館がある学校で約700万円の建設費がかかります。**学校**

について教えてください 生徒数が多く、朝・昼・午後の3部制にして1000人の生徒が、自転車や徒歩で2時間以内の範囲で通って来ます。国語・算数・社



会・体育を教えています。**子供は何時間働きますか** 親がいる子供は1日8時間くらいです。親のいない子供は10時間から12時間働きます。子供のうち約40%が戦争で親を亡くしています。この子供達は親戚に引き取られています、自分で生計を立てています。**アフガンの子供は何を幸せと感じていますか** 心配しなくても生活できる平和を一番望んでいます。それから勉強して平和な国を作りたいと思っています。そんな生活を幸せと考えています。

松本深志高校図書館ゼミ

アフガン特有の女性問題があるというが 女性は10才を過ぎるとベールで顔を覆い、家族以外の人の前に出なくなる。15才くらいが結婚適齢期で、母親の決めた男性と結婚する。10人を越える子供を出産するため、大半の女性は35才くらいになると体調を崩す、買い物も男性がするなど、女性は文字通り家庭の中に縛り付けられ、家庭以外で職業につくことはなく、社会的な地位はほとんど

認められていないという問題を抱えています。

それでも、戦争が終わり、政権が変わり、少しずつですが女性の社会進出が認められ、変化が見られるようになって来ました。

教育について教えてください 戦争が終わって、ようやく小中学校の教育が始まった、という段階です。

6・3・3・4制ですが、学校・先生・教材など全て不足しています。小学校2年で戦争になり勉強できなくなった人が5・6年生の先生を勤めているケースもあり、何をどう

やって教えたらいいかわからない先生もいます。授業が面白くないため生徒も学校に来なくなります。それがアフガンの現状です。**日本は何が出来ますか** アフガンが戦争にあえいでいる時、世界はアフガンを見てくれなかった。戦争が続き、私も含めて難民が出て多くの命が奪われても、世界は私たちを助けてはくれなかった。今は日本を含め平和のための協力をしてくれ、平和への歩みや復興への歩みを始めることができるようになった。同じアジアの片隅でアフガンの子供達は、日本から支援してもらいながら、支援してくれる日本の子供達のことを思い頑張っています。日本からの支援に感謝し、日本の子供達に感謝しています。そんなアフガンの子供達のことを忘れないでほしい。そうすれば必ず自分たちの力で平和な国をつくことができます。アフガンを忘れないで欲しい。

この様に学校教育の場に私たちの活動を取り入れてもらえるようになっています。ただ外国の事を知るというだけでなく、多くの問題を抱える日本が、大人が、子供が、そして自分が、平和を求めて必死に生きる彼らから何かを学ぼうとしているのです。生徒たちの真剣な姿は、彼らを勇気付けるとともに、明日の日本を担う大きな力になると思います。



掲示板

(皆様のご参加お待ちしております)

～お盆前の作業と懇親会～

7月22日(土) 15時より作業(お墓の掃除・窓拭き)、17時より懇親会、作業のできる服装でお越しください。参加希望の方はお寺へその旨電話ください。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

～施食会～

8月5日(土) 12時より昼食、13時よりお話、14時より法要
15時より塔婆配ります。ぜひご参加ください。

～座禅会～

8月26日(土) お粥と精進料理、9月16日(土)、10月21日(土)、11月18日(土)、12月16日(土) お粥と精進料理、それぞれ4時から6時まで行います。

～ご詠歌会～

8月24日(木)、9月14日(木)、10月12日(木)、11月9日(木)、
12月7日(水)、10時から11時30分の練習になります。

～観音講～

毎月17日、10時から12時30分まで行います。観音様にお経をお唱えし、住職からの話、ご詠歌、大黒のピアノにあわせ唱歌を歌い、精進料理をという日程です。毎回2000円の積み立てをして6月と10月は近郊への小旅行です。

(寺の都合で日程に変更がありますのでご了承ください)

お知らせ

- ☆ **本堂での座イスご寄付お願いします** 現在本堂での法要にと座イスを用意してありますが、60人が座れるだけです。そこで一人掛け座イスで名前をお入れして、一基約3万円ほどでご寄付いただけないでしょうか。何基でもかまいません。ご協力いただける方ございましたら、電話や手紙などでお申込みください。お願いいたします。
- ☆ **開山堂の位牌調査をしています** 開山堂の位牌の位置を表示したいと思えます。お名前を確認したいと思えますので、開山堂内に掲示した表に、お名前・旧町名・電話番号 のご記入をお願いします。
- ☆ **全久院内墓地の改装に当たり** 最近のお墓の工事にはクレーンなどの機会が欠かせませんが、道が狭くて中に入れず、区画の調整が急務となっています。墓地の改装に際して寺と相談いただきますようお願いいたします。